

安岡 明雄

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

関係人口をふやす取り組みをどう進めるか

質 地域外の人材が、地域づくりに加わるなど期待され、県内でも鹿角市等が既に取り組んでいる。関係人口によって、まちづくり参加、さらには移住・定住の促進につながるなど、好循環になるのでは。

答 国では、地域にルーツのある者等、ふるさと納税寄附者、これから地域とのかかわりを持つこととする者等の3つを関係人口と定義している。本市の関連する取り組みとしては、ふるさと会との継続的な交流、首都圏での企業懇談会等を行っているほか、ふるさと納税寄附者へ「ふるさと通信」を送るなどしている。他の事例を参考に、より効果的な手法を検討したい。

都市のスポンジ化の対応をどう捉えるか

質 人口減少と超高齢化が予想以上に進み、都市機能の維持、上下水道料金や各種負担金の増、市税など収入の減少が伴う影響が出てくる。都市計画マスタープランを検証する必要があるのではないか。

答 市としては、上位計画である第2次能代市総合計画を29年度に策定したことや、今後予定している能代市国土利用計画の見直し、立地適正化計画の策定、地域の課題を踏まえた、同マスタープランの見直しが必要な時期に近づいていると考えている。見直しの際には、人口推計等をもとより、多くの市民の御意見も反映しながら取り組んでいきたい。

その他の質問事項

- 移住・定住対策に奨学金返済の助成は
- 災害に強いまちづくりをどう進めるか
- 高齢者の行方不明の発生と捜索の課題

落合 康友

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

2020年からの小学校の英語教育

質 小学校5・6年生の英語が正式教科化するが、英語指導経験のなかった教員が指導や成績評価に当たら等、限られた予算内での教育改革が実のあるものになるのか不透明である。市独自の教育方針は。

答 本市では、中学校の英語科の教員を教育専門監として配置し、小学校の外国語活動の指導を行っている。また、外国語活動支援員を4名、ALTを3名配置し、学級担任と協力し、より充実した授業を行える体制を整えている。さらに、授業研修会を開催し、県の指導主事による講話や教育専門監による模擬授業を行い、教員の指導力向上にも努めている。

市職員のワークライフバランスの実現

質 29年度は時間外勤務時間数や手当総額がふえている。これまでも過重労働の解消に取り組んでいる。これまでも過重労働の解消に取り組んでいる。これまでも過重労働の解消に取り組んでいる。自治体トップの市長の所感は。

答 市では、本年3月、第2次定員適正化計画を見直し、新たに30年度から5年間の第3次計画を策定した。計画では、事務事業の見直しや業務改革、業務の委託化、民営化等の推進、簡素で効率的な組織づくり、多様な任用・勤務体制の整備等に取り組むこととしており、これらの取り組みを推進していくことにより、時間外勤務の縮減に努めたい。

その他の質問事項

- 英語教科化による教職員多忙化への影響
- イオン出店計画の詳細

小林 秀彦

改革ネットワーク(青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党)

脳ドック検診へ助成する考えは

質 脳血管疾患の危険因子を早い段階で発見し、発症を未然に防ぐためには、脳ドック検診が有効な予防法の一つだが、費用が高額である。予防と早期発見、早期治療を促進するため、助成の検討を。

答 脳ドック検診は、健康寿命の延伸につながる有効な検診であり、近年増加傾向にある国民健康保険や介護保険における給付費の抑制にも期待が持てると考えている。検診費用の一部を助成し、市民の費用負担を軽減することで、より多くの方に受診しやすい環境を提供できるようにするため、31年度の実施に向けて検討している。

東部地区への巡回バスの考えは

質 65歳以上の高齢者の4人に1人が食料品を買いに行くことが難しいとの推計がある。東部地区とスーパー、病院等を回る巡回バスを検討してもらいたいという要望が高齢者から出ているが、市の考えは。

答 現在策定中の能代市地域公共交通網形成計画では、地域の特性や市民ニーズをもとに、巡回バスに限らず、路線バスや乗り合いタクシー等を組み合わせるなど、効率的で効果の高い手法を検討する。公共交通の要望は多くの地域等から寄せられており、それらの声に耳を傾け、安心して暮らせる地域づくりに向け、公共交通網の形成に取り組むたい。

その他の質問事項

- イージス・アショアの本県配備
- 能代港洋上風力発電事業
- 農家の負担なしでの中山間地の農地整備